

平成22年春の特別展のご案内

国立公文書館では、所蔵資料を広く紹介し、館の活動と歴史資料として重要な公文書等を保存することの意義をご理解していただくため、常設展のほか、春と秋にテーマを決めた特別展、夏の企画展を開催しております。

平成22年春の特別展「旗本御家人Ⅱ - 幕臣たちの実像 -」

テーマは昨年度同様、旗本御家人。今回は、「旗本御家人 幕臣たちの実像」と題して、出生から臨終まで、人生の折々に作成された文書から、幕臣（旗本御家人）たちの知られざる姿に光をあてます。タテマエとホンネが巧みに使い分けられ、先例や格式に縛られていた幕臣の世界。それでも研究に情熱を注ぎ、すぐれた著述や編纂物を残した人もいれば、政治や外交の難局で卓越した能力を発揮した人もいました。さらに幕末になると、幕臣の中から若き才能が輩出。彼らは維新後もさまざまな分野で活躍します。展示ではこれらの異才たちの業績も紹介します。

開催期間：平成22年4月3日(土)～4月22日(木)

開催時間：入館は、それぞれ閉館の30分前まで

月～水・土・日曜日 午前9時45分～午後5時30分

木・金曜日 午前9時45分～午後8時

入場無料

編集後記

先号に引き続き、訃報をお伝えしなければなりません。アジ歴の石井米雄センター長が去る2月12日、80歳で逝去されました。石井先生の研究者としての軌跡を描いた自伝『道は、ひらける——タイ研究の五〇年』（めこん、2003年）は、学問と対峙するための覚悟と厳しさ、喜びを教えてください。外務省のノンキャリアから研究者へ、その不屈の精神がアジ歴にも刻まれています。様々な国、立場、年齢の人々がアジ歴を使って史料に巡り会い、様々な角度から史料を読み、歴史と向き合うことによって、今年度アジ歴が失った大きな柱 - 石井先生と牟田昌平専門官の思いは花開くことでしょう。(羊)

今年の冬は東京でも雪が舞い、寒い日が続きました。毎年1月末恒例の実務担当者研究会議が開催され、全国から集う専門家の新たな出会いがありました。人の出会いばかりではなく、知識や技術等への新たな知見にも出会えたものと思います。年度末、去る人もいて惜しまれますが、また来る人がいて出会いの輪が広がります。良き出会いをしたいものです。(夢)